
大学図書館問題研究会 京都

京都市左京区言田本町 京都大学教育学部図書室 (竹村心気付)
TEL 075-753-3013

第13回支部総会記録

1990年10月20日(土)午後2時より同志社大学クローバハウスで支部総会がひらかれました。関東に移行した新しい常任委員会からメッセージを受け、事務局長より支部活動の総括と方針について報告がありました。財政報告のあと討論にはいりました。同志社大学、京都大学、京都学園大学、京都橋女子大学、立命館大学から18名の参加で、現場の実情を中心に話あいました。

(立命館大学) 国民の側の情報政策を我々側でつくっていく必要があるということ、いろいろ考えたり、話あったりしている。4月より学情に参加し、稼働している。OPAC、自動目録システム等を考えている。来年それらに取組んでいきたい。無駄な作業を省いて、学生や研究者に対してどうサービスに生かしていくかである。

(京都大学) 文学部は建物が古いので、10万冊どこかへ移さないといけないことになっている。箱ずめ作業があり、準備がたいへんな状況にある。何か良い解決の方法がないか。50年くらいもつような図書館建築基準が必要だと思う。

(京大班) 毎月、幹事会を行っている。京大班では、若い人を中心に会員以外も含めて、情報検索の実習を行った。計10回、延べ40名をこえた。大図研大学に会員以外の人参加し、会員が5名増えた。しかし、今年は班の講演会はできなかった。

(京都学園大学) 図書館は職員6名と3名のアルバイトで、会員は3名いる。83年に短大、89年に法学部ができ、来年、経営学部ができる。図書は年々増えているが、人は増えていない。書庫のスペースもいっぱいである。閲覧室も本棚を増やすために、座席数が減りスペースが狭くなってきている。閲覧室が限界にきている。目録はまだカード目録で、学情システムに参加できる状況にない。

(京都橋女子大学) 文学部の単科大学で、学生は1600名。職員は4名、嘱託2名、アルバイト1名。会員は3名いる。未整理の図書が山のようにある。1986年開館し、

建物は奇麗だが、旧図書館時代のものをひきずっていて、仕事ははけていない。AVセンターが開設されているが、たいへんである。絶対的に本がない。常に立命館大学、京都大学に御世話になっている。自然発生的に相互利用が発達した。電算化は検討中である。

(京都大学) パート職員が半分もしめている附属図書館では、週40時間の試行の中で、土曜は今まで通り維持しなければならない。今の状態ではどうにもやっていけない。パート、学生バイトで維持しなければならない。話あう時間がないので、職員間の連帯がうすれてきているように思う。図書館として日曜開館もいわれているようだが、お金と人を増やさないとサービス向上は図れない。相互協力の点では、外国から文献依頼があっても、会計的に処理する手立てが不十分な状況にある。

(同志社大学) 教員400,職員300,学生2万強,図書費4億円(学生図書費1億)研究室に各事務室があり庶務から図書までの仕事をやっている。部局の図書はあまり開放されていない。図書の貸出数は年間25万冊,学生1人当10冊程度である。今,最大の問題は書庫のスペースである。検討委員会がもたれ,現在調査をしている。図書費の増額要求を交渉中であるが,重複調査,利用度等を理由に当局はしぶっている。人事異動によって,はえぬきの図書館員がいなくなってきた。資料価値の判断力からレファレンスまで恐慌を来している。電算化も部局の実情を調査せずにやるので,現実,マニュアル+電算化で仕事が増えている。学情の入力も始まっている。39年以後の遡及入力をするようになってきているが,できない状況にある。閲覧業務は専任1名,アルバイト3名でおこなっている。アルバイトが多いため不正確な対応しかできない。また,電算化業務で質の低下を痛感している。会員は6名で,図書館員の倫理綱領,請求記号等勉強になる班会議をしてほしいというのが共通の要求である。

(立命館大学) 業務が電算化されてから,オリジナル入力等専任職員の力量が問われてきているが,人事異動で,力量がつけにくい状況にある。全学に図書館の政策をアピールすることが大事である。先程,相互利用の話がでたが,ILLをやれば,大きな図書館が大きな矛盾がでてくる。学情とBLDSCをオンラインで結ぶ計画があると聞いている。

(京都大学) 工学部図書館システムは中間報告が出てから2年たつが,状況は全く変わっていない。端末機が入ってもいつから入力するのかの話ができていない。研究者は図書室にあまり期待していないようである。大図研では刺激になるが,現場をみるとかなりギャップがある。

東洋学文献センターではDBを作成しているが、専任職員が少なくデータの質が落ちてきている。

京大では10月から英会話の研修が時間内に行われるようになった。参加希望70名で、受講できたのは15名。経済学部では英会話、スペイン語等興味のある人が多く、最近、朝鮮語の図書が入り、ハングル語の学習会を昼休みに行っている。

(大図研大学・科学史) 4月から始め、メンバーは12名で6回行っている。講師は理学部の富田先生で、主題知識を深めるため、自然科学がどのような道筋で発展してきたか等の知識を図書館員として身につけるように勉強している。12月末には合宿をし、総括的な議論を行う予定である。

(大図研大学・外書講読) 英語論文を読むというのは、現在まで5回やっている。月1回のペースでやっている。講師が一方向的にしゃべるという形がおおいが、図書館関係の論文も「継続は力なり」で10年やれば必ず読めるようになると思うので、がんばりたい。

以上、時間の関係で、情勢とそれに立ち向かう方針に関する討議は不十分でしたが、5時には討論を終え、各議案を採択し、閉会しました。尚、新しい支部委員は次の人々が選出されました。

支部委員

篠原俊夫	京都大学医学部図書館
堤 豪範	京都大学数理解析研究所図書室
竹本文夫	同志社大学人文科学研究所
竹村 心	京都大学教育学部図書室
大館和郎	京都学園大学図書館
橋本展世	京都大学文学部図書室
西野真知子	京都大学教養部図書館
松原 修	立命館大学図書館
小林倫道	京都橘女子大学図書館

会計監査

今西貞子	京都大学文学部図書室
舩越清美	京都大学経済学部図書室

支部委員会だより

1990年度第1回支部委員会は11月6日午後6時30分より京大教育学部にて行われました。情勢、第2回全国委員会、日図協京都連絡会、大図研大学進歩状況等について報告され、支部総会の総括について話会われました。

新しい支部委員の任務分担は(支部長)篠原(副支部長)堤(事務局長)竹本(事務局次長)竹村、大館(財政)橋本(支部報)堤、小林(年報京都の大学図書館)松原、大館(大図研大学)竹村、西野です。

支部報編集計画は次のようになりました。(1)編集方針=4~6ページで短い記事をこまめに集めて載せる。なるべく原稿はワープロで(37字X32行)。もちろんワープロでなくても大歓迎。(2)記事の内容=A:小レポート(小論文、現場の話、実務に役立つ情報、その他なんでも)B:「カウンターから」レファレンスの事例、おおげさに言えば、求める資料を求める人の手に。気軽に言えばカウンターでの経験談、所蔵調査の苦心した経験などなど。C:支部委員会だより。D:宣伝広告。どしどし原稿を送ってください。

大図研大学案内

理工学文献案内

12月8日14時～
9日16時(8時間)
講師 林 門典氏
場所 京大会館
参加費 3000円

受講申込は竹村 心(753-3013)まで